

## 短大生が考える「幸せ」について

—— 清泉女学院短期大学幼児教育科1年生を対象とした調査をもとに ——

市 沢 正 則

### What Is Happiness?

Views from Early Childhood Education Freshmen  
at Seisen Jogakuin College

Masanori Ichizawa

This article looks at how 130 early childhood education freshmen at Seisen Jogakuin College in the 1996 academic year define happiness, and put this in a philosophical context.

短大生が考える「幸せ」とは何か。本学の必修科目である「人間学」第2回目の授業（1996年4月中旬）でこの内容を取り扱い、入学したばかりの学生が「幸せ」についてどのように考えているかを調査（女子130名回収）した。本稿は社会学的統計としての研究ではなく、哲学的な問題である「幸せ」について本学の学生（幼児教育科1年生）がどう考えるかを紹介するものである。彼女たちの考えをまとめ、必要な部分に適宜考察を加えた。

#### I. はじめに

##### 1. 学生の記述に関して

1996年度の「人間学」の授業では、教科書に星野富弘著の詩画集『風の旅』<sup>1</sup>を使用した。この本は人生の課題（生死、幸、不幸、健康、病気、醜さ、美しさ、もがき、あがき、あきらめ、希望、ユーモア、親子、友人、恋人、結婚など）を多く提供する。「はじめに」の章で星野氏は次のように書いている。

私は少年の頃、この山をちょっぴり憎んでいました。父母のように土にまみれ狭い畑をかきまわしながら送る山の生活が、堪えられなかったのです。お金や地位など、一見しあわせそうに見えるものが、山の向こうにあるように思っていたのかもしれませんが。「いつか・・・、きっといつか・・・」

なんて思いながら、山を見上げていたのをおぼえています。その「いつか」が、とんでもない方法でやって来たのは、大

学を卒業した年の六月でした。<sup>2</sup>

この文章を学生に読ませた後に、「みんなにとっての『しあわせ』は何ですか。定義でもいいし、幸せを感じる時の具体的な例でもいいし、自由に書いてください」と説明し、B5版の用紙に約10分間で書かせた。

学生の記述に関しては、「食べる」と1つだけあげた学生もあれば、20個ほどの例を

書いた学生もいた。また、「普通の平凡な生活」とだけの記述もあれば、そのことについて説明を加え、「散歩、お茶を飲むこと」など具体例を記した学生もいる。表1・2が調査した分析の結果である。カッコ内の数字は各項目に「幸せを感じる」と記述した学生の数で、一人の学生が複数の項目に入っている場合がある。

表1 「幸せを感じる時／幸せとは」の項目別分類

具体例として：			
1	生理的な欲求：	食べる (41)	飲む (2) 寝る (35)
2	健康	(25)	
3	趣味的な生活：	散歩 (6)	歌／音楽 (6) 入浴 (5) 買い物 (4)
		読書 (3)	旅行 (3) 赤ちゃんを見る／抱く (3)
		テレビ (2)	
		ぼーっとする (8)	ゆっくり考える (2)
4	自然環境／気候：	自然 (8)	天気 (8)
5	学校：	ある (3)	ない (2)
6	人との交わり I：	友人 (46)	家族 (41) 好きな人 (11) 周りの人 (6)
7	人との交わり II：	愛する／愛される (7)	人の為に何かをする (4) 信じる (1)
8	目標：	目標の実現 (19)	目標をもつ (11)
9	笑いのある生活 (7)	／明るい生活 (3)	
10	平凡な普通の生活	(23)	
11	生きていること (9)	／今 (5)	
12	その他	(10)	
定義として：			
1	自分が楽しいと感じたとき	(3)	
2	自分でつかむもの	(3)	
3	なくしたときに気付くもの	(3)	
4	自分に充実感をもたらすもの	(1)	
5	自分のためになっているもの	(1)	
6	比べられることのない世界	(1)	
7	自分の居場所がある	(1)	

表2 「幸せに感じる時／幸せとは」の項目別順位（上位10）

順位	項目	学生数
1	友人	46
2	家族	41
3	食べる	41
4	寝る	35
5	健康	25
6	平凡な普通の生活	23
7	目標の実現	19
8	目標を持つ	11
9	好きな人	11
10	生きていること	9

## 2. 考察にあたって

われわれ日本人は幸福という言葉はあまり使い慣れていないようだ。『現代哲学辞典』<sup>3</sup>でも、「『わが子の幸せを祈る』とか『どうぞおしあわせに』という言葉は頻繁に使われても、『自分の幸福』を、正面から語るのは少し面映ゆい感じがする」と記されている。『大辞林』<sup>4</sup>には「しあわせ」は「めぐりあわせがよいこと。また、そのさま。幸運。幸福。運命。」「幸福」は「不自由や不満もなく、心が満ち足りていること。また、そのさま。しあわせ。」とある。このことから、二つの言葉は意味の違いはほとんどなく、その時の状況にあわせて使われると考えられる。確かに、学生に「『幸福』って何だと思いますか」と聞くよりも、「『しあわせ』って何ですか」と聞く方が、口語的で、柔らかいひびきがある。堅苦しさを与えず、学生に自分が思っていることを書かせるためにも、また、星野氏の冒頭

での語が「しあわせ」という理由で、「しあわせ」を使用した。しかし、本稿で参考にした文献が「幸福」という言葉を使用しているときは、そのまま「幸福」を用いた。

「幸福について人々が抱いているかぎりの意見を残らず検討するのは、よけいな仕事である。というのは、小さな子供にも、病人にも、また正気でない者にも、幸福についてのいろいろな考えが浮かぶ・・・、さらに、一般大衆の意見も・・・検討することはよけいな仕事である。なぜなら彼等は、いわばなにごとについても、口から出まかせに語るのだが、幸福については特にそうだからである」<sup>5</sup>とアリストテレスは述べている。確かに、この調査ではさまざまな意見がでた。個人が考える幸せを書かせたわけであるから当然であろう。しかし、突然与えられた課題について、10分の短い時間で考えなければならない点、かえって、各学生が日常、意識的・無意識的にもっている価値観をかいま見ることができ

たように思う。以下、調査した学生の考えを古今東西の識者の考えと適宜対比しながら考察していく。

## II. 考察

—具体例として—

### 1. 生理的な欲求

#### 飲食

幸せと感じるときの順位では生理的欲求である「食べること」が「友人」に次いで2位であった。「太った豚よりもやせたソクラテス」とは言うけれど、生き物としての人間、ものを食べなければ生存できない。単に「食べること」と書いた学生が13名、パフェ・抹茶アイスなど、好きなもの、おいしいものを食べているときに幸せを感じるものが17名、お腹一杯食べた時に感じる満足感が幸せの要素であると答えたのが3名いた。ユニークなものとして「回っていないお寿司をお腹いっぱい食べたとき」、「川原で100人でおにぎり食べた」というのがあった。では、学生はどのような気持ちで食べているのだろうか。その気持ちを表わしているのが次の2名の学生である。

「世の中、食べたくても食べられない人がいると思う。だから、お腹いっぱい食べた時は幸せだ。」

「私はすぐお腹がすいてしまうので、たくさん食べると、ものすごく気持ちがいいです。そして、食べ物をつくってくれた人たちに感謝することで幸せに感じます。そして、満腹感のあとにくる眠気もまた幸せを感じる。生きているなあって

感じがします。病気になったりすると、好きな物もたくさん食べられないので、今のうちにたくさん食べたいです。」

1996年世界食糧サミットでの発表によると、世界では八億もの人々が栄養不良の状態におかれているという。<sup>6</sup>現在の日本では、ほとんどの人が食べたいとき、食べたいだけ、食べたいものが食べられる飽食の時代、グルメ指向の時代である。このような状況で、上述の学生のように、飢餓に苦しんでいる人のことを思い、また、つくってくれた人に感謝して食べるという気持ちは特筆すべきだろう。また、感謝の気持ちを持つと努力している学生もいる。

「私は不幸せの時にしか、「あの時は幸せだったなあ」と考えない気がします。ふだんの生活の時には、いつも幸せなんだと感じられる、感謝の気持ちを忘れない心の豊かな人になりたいと思います。」

人間が幸福になるためには、多少の不幸が必要だとパスカルはいう。アレクサンダー大王は朝食をおいしく食べるために夜に散歩をし、夕食をおいしく食べるためには軽い朝食をとって、常に三度の食事を楽しんだという。学生も「空腹の時ご飯が食べられる」ことが幸せだと書いている。質素な食事、腹八分目に食べることは幸せを感じる最大の方法なのだろう。

「飲む」ことについては2名の学生だけが触れた。「暑い時の一杯の水」と、「真夏の暑い日に電車に乗り遅れて目的地まで走って着いた後のウーロン茶」で、アルコールではなかった。

## 睡眠

寝ることが幸せと感じる学生は38名。幸せを感じる順位では、「友人」、「家族」、「食べることに」について4位である。特に、「晴れた日に外へ布団を干して夕方それをとりこみ、太陽のにおいがしみついたふかふかになった布団に、洗いたての、のり付けしたシーツをして寝るとき」というように、「干したばかりのふとん」に寝ること（4名）が幸せな感じを助長するようだ。また、寝る瞬間（8名）に幸せに感じたり、「朝、目覚ましがなくて、『あと十分』と言ってまた寝ること」など、「もう少し寝られるとわかった瞬間」（2名）にも幸せを感じる。

生理的必然性以外に睡眠することに幸せを感じる理由があるのだろうか。ある学生は「何も考えないで眠っているとき」とその理由を示し、また別の学生は、「人は考え深く、悩む生き物だと思う。山田かまちは子供の頃、『一番難しいのは考えないことだ』と言ったそうです。なので、眠っている間は、疲れもとれて、何も考えたり、悩んだりしなくていいから幸せなのだろうか」と問う。

「寝る子はよく育つ」と言われるが、「しばらく眠り、しばらくまどろみ、手をこまねいて、またしばらく休む。それゆえ、まずしさは盗びとのように、あなたに来、乏しさは、つわもののように、あなたに来る」という警告も聖書<sup>7</sup>にある。結局、食べるにしても、寝るにしても、「蜂蜜は体にいいが、たくさん食べると体にはよくない」ように、程度の問題か。

## 2. 健康

ショウペンハウアーは、われわれの幸福の

9割までは健康にもとづいているという。多くの学生は、自分ばかりではなく、家族、友人、周りの人たちが健康であること（25名）が一番の幸せだと感じ、「幸せを感じる」順位では5位である。次の学生の記述が健康のありがたさ、大切さをよく伝えている。

「高校の友達で、(ある)手術をして4ヵ月ぐらい入院している人がいた。その間、ずっと学校を休んでいて、ちょっとうらやましいなあ、なんて思っていたときもありました。だけど、実際病院へお見舞いに行ったときのことです。その時初めて入院する辛さ、悲しみ、孤独感というのが伝わってきたような感じがした。走りたくても走れない。立ちたくても立てない。こんなに辛く、厳しい試練はないなあと感じました。私たちは普段、いつものように歩いたりしているけれど、世の中にはそれができない人だっているということを、改めて実感しました。今、こうして健康でいられること、それが一番の幸せだと私は思います。」

「私にとっての幸せは家族全員が健康で普通の日々を暮らせることです。長い間、家族の一人が入退院を繰り返してきたため、小さな頃から家族全員が元気ならそれが一番だと思ってきました。ですから、一日一回でも家族がそろって笑っていられば、当り前のことだけど、うれしく思います。」

## 3. 趣味的な生活

### 入浴

5名の学生が「お風呂に入っているとき」

に幸せを感じるという。お風呂に浸っているときの快感はどこからくるのだろうか。木村武一氏はドイツの思想家ベンヤミンのことは、「幸福であるとは、何の恐れもなしに自己を眺めること」を引用して、その理由を説明している。「一枚の皮膚によって私の体は外部を遮断されてはいるものの、ほどよい湯かげんのなかでまるで私と体と湯のあいだには何の境目もなく、私自身も世界のすべてもこころよい湯に融けあっている。ふだんは必ずどこかの上に置いたり、何か支えたりしなければならぬ手や足や胴体や背中などは、ただ湯のなかに投げ出せば何の抵抗もなく湯が支えてくれる。感じられるのは、心地よい湯の温もりと平和な心だけである。こうしてぼんやりと全身を湯に委ねていると、不思議なことに、世のわずらわしいことが頭から消えてしまう。風呂のなかで考えることといたら、湯かげんぐらいのものである。・・・風呂にはいつているときは、たしかに恐れや不安などから解放された時間である。・・・ふだんの心配ごとを忘れるように努めているわけではなく、風呂にはいると自然にそういうことが霞んでしまう。」<sup>8</sup> 肉体的な心地よさが、精神的な心の平和をかもしだす例だろう。ただ、ぼんやりしているだけではなく、「明るいうちにお風呂に入って、本を読む」学生もいる。

## 読書

アリストテレスは、人間はさまざまな目標を求めるが、究極の目標は幸福であり、その他の目標はすべて幸福を達成するための手段にすぎないと述べ、人間がもつ三つの本性を説明する。第1に、食養摂取とか成育の意味における植物的な本性；第2に感覚、情動を持つという意味での動物的な本性；そして第

3に、理性を持ちあわせているという意味での人間的本性（知性、および、徳）である。人間が幸福になるかどうかは、自分の能力と才能を十分に発揮するかどうか、あるべき自分の姿、自己を実現できるかによる。次に、それぞれの本性が発揮され、実現されていく程度に応じて、段階的に幸福になっていくという。「すべての人がではないにしろ、少なくとも語るに値するほどの人はすべて、徳と知性を幸福にむすびつけている」<sup>9</sup>と述べ、幸福は人間の最高の本性である理性的な部分の常なる活動であるとする。それは生涯においてなされなければならない、「一羽の燕が、また或る一朝夕が春をもちきたすのではなく、それと同じように、至福なひと・幸福なひとをつくるものは一朝夕や短時日でない」<sup>10</sup>という。

では、この知性を得るためにはどうすればよいのであろうか。<sup>11</sup> 西欧中世の諺に「自分は巨人の肩の上に立っている小人である」というのがある。ものを知る手段の一つは心を開いて辛抱よく、歴史上偉大な人物が書いたものから学ぶということである。たしかに、どのような内容の本を読むかは重要なことである。しかし、少なくとも読書の習慣があることにより、その人の知識の量は増え、幸福度も増すのは確かだろう。たんなる一方通行の過程ではなく、常に、著者との内的会話がなされ、頭が刺激される。テレビとは違い、能動的にもの考えることができる。調査の中では、3名の学生が幸せな時として読書をしている時をあげているが、130名の短期大学生のうちの3名だけというのは寂しい気がする。たとえ「お風呂に入って、本を読む」ことであろうとも、読書することがせめて幸せの一つにでもなってもらいたい。アリストテレスのいう人間の最高の本性を発揮するため

にも。

### ぼんやりしているとき

人間の幸福は知性を発揮することによって得られるというのであれば、暇のある生活は非常に重要なことではないだろうか。「忙しい」の「忙」という漢字のつくりは「心」が「亡びる」である。ポーっとする時間を持つということは、まだ「心」が存在している状態が続き、理性的な思索に入る前段階、知性を活動させる準備段階とも言えるのではないか。8名の学生がこの段階にいるようだ。

「いろいろ気にしたり、考えたりしなくていいとき」

「なにもしないでポーっとしているとき」(3名)

「ポケットしているとき」

「いえに帰って、くつろいでいる時間」

「たまにはポーっとできる何も考えないとき」

「晴れた日(太陽がでていて、風は少し吹いていて、寒くもなく、暑くもない日)に、外へ出て、ポーっとしていることです。いやなことでも天気の良いで忘れてしまうから」

ただ、この段階だけで終わってしまわないで、実際に次の思考の段階までたどりついてほしい。

### ゆっくり考えられるとき

ポーっとした段階をすぎて、ゆっくりと考えられるときが来た。この境地にある学生は2名いた。

「忙しい生活が続いている中でできた自由な時間。家の中での空いている空間。ゆっくり、あれもしたい、これもしたいと考えて、これからの計画を立てているとき」「時間を気にせず物思いにふけっているとき」

### その他

趣味的生活のその他の部類では次の6個をこの分類に加えた。

散歩(6名):「春めいた日に散歩すると『生きているって幸せ』と感じる」

歌/音楽(6名):好きな曲を聞く(2名)  
/歌う/カラオケをしているとき(3名)

買い物(4名):衝動買い/「安売りをしている時に快感を感じる」

旅行(3名):旅行に行く計画をたてる時/旅行の前夜(2名)

赤ちゃん(3名):赤ちゃんを見る/だっこする/「赤ちゃんを生んだ瞬間は感動と幸せを実感すると思う。(まだ生んだことはないけど)」

テレビを見る(2名):「SMAP」の出ている番組(1名)

体を動かすこと(1名)

## 4. 自然環境/気候

「自然があり」、「庭先からの花の香りをかぎ」、「見たこともない花を見て」、「綺麗な夜景や風景を見る」ことに幸せを感じる学生が、それぞれ1名ずつ。また、東京と比べ田舎だが、のんびりとした長野に生まれて幸せと感じる学生もいた。

春には「春だなあって感じ」、春から夏になるとときには「毎日がうきうき、何だか分から

ないけど、頑張ろうという気力があふれて、夏には「扇風機の前で暑いのを忘れるとき」に幸せを感じる。また、「天気がいい」日に、「日向ぼっこをし」、「気もちいい風が吹いたとき」にも幸せ。

## 5. 学校

この短大に入れたこと(2名)、今、学校が楽しいこと(1名)が幸せである。また、「小学校の6年間毎日学校に行くのが楽しみだった」(1名)という。この学生は日本のどの学校で、どのような教育を、どの教師に受けたのだろうか。

学校がない日(2名)、すなわち、土曜日や、学校が休みの前の日の夜には幸せを感じる。

## 6. 人との交わり I

カール・マルクスは、過度の資本主義社会では強いられた労働によって人間は人間らしさを失っていくと説いた。自分が作り出したものは他人に渡し、自分の労働そのものに興味を失う。忙しすぎて、自分と一緒に働いている仲間、家族との関係も疎遠になる。最後には、自分自身をも見失う自己疎外の状態に陥る。労働者の幸福とは、適度に働き、夜はワインを飲みながら人生を語り、家族・友人・隣人との関係を大事にし、教養に豊んだ、内的に豊かな人間として生きることである。このように、マルクスは自己疎外の要素として、人間関係の疎遠をあげている。カール・ヤスパースも人間関係の大切さを強調する。人間は相互に要求されあい、それによって、自分を確立し、生活を充実させる。人間同士

の交わりにおいて実現されないものは今だ存在せず、「真理は二人から始まる」<sup>12</sup>と考える。

この人間関係のなかにわれわれが幸せを感じるというのは当然であろう。調査でも、友人をあげた学生が46名、幸福に感じるときの順位では第1位である。この項目では次に家族41名、好きな人11名、不特定な周りにいる人6名と続く。

## 友人

古代ギリシャでは、すべての愛のなかでもっとも幸運なのが友愛と考えられていた。友愛は徳の修練所であり、これを持つことは人生の栄冠を持つことでもあった。一人の友人を持つことは、自分とは違うもう一つの世界を知ることになり、その人間の見方が広がる。逆にその友人を失うことは、自分の一部がなくなるようなものである。しかし、C.S. ルイスは『四つの愛』<sup>13</sup>のなかで、現代の世界ではこの友愛が無視されているのではないかと懸念する。友情を経験するものがほとんどいない故に、それを尊重するものがいないのだ、という。清泉短大の学生は友人とどのような関係にあるとき、幸せを感じるのか。まず、「友人と一緒にいる／過ごす」こと(12名)自体が幸せだと感じる。さらには「友人と話をする」(14名)、遊んだり(6名)／助けてもらったり、あげたり(3名)／食べたり(2名)／ふざけあったり／笑ったり、などである。

「挨拶するとき、あー、私には友達がいるんだ、と幸せになる」

「食べることができて、友達といっぱいおしゃべりできるような生活。これ以上の幸せはないくらいだ。」



結局、「大好きな友達と過ごし」、「悪口など決して言わず、仲良しでいられる」のが幸せであり、一日の大半を学校で過ごす生活のなかで、彼女たちにとって友人は大切な栄冠なのだろう。次の3名の学生は徳の修練の場として経験したようだ。

「共に悲しんだり、喜んだりしてくれる人がいること（友人でも、恋人でも）」

「私が今までに幸せだと思ったことは、たくさん友達に出会えたことです。友達からたくさんのことを学べたことを幸せに思っています（駄目になりそうなどに、助けてもらえ、一緒に喜ぶことができる）。これからも幸せに思うことは、たくさんお友達を作り、刺激を与え合えることだと思います。」

「チームメイトが励ましてくれたとき（クラブ活動で、いい結果がでなくて、苦しかったり、泣いたりしたとき）、夜、遅くなったときにも一緒に練習できたこと。」

「けんかをしたり、たまには憎みあったりすることもあるけれど、友達に支えられてがんばってこれたような気がする。親には相談できないことでも友達には話せることがある。」

C.S. ルイスがいう真の友人は、共通の関心事に心を奪われ、同じ真理、興味に目を向ける。しかし、単に、「友人を欲する」感傷的な人は友人を作りえない、どこへも行こうとしない人は道連れを得ることができない、という。友人を持つということは、友人以外に何かほかのものを欲していなければならない。清泉短大の学生はどんなものに共通の興味を

持ち、一緒にいる時どんな話しをするのであろうか。学生の記述にはなかった。ここで問題となるのは、学生は友人に何を求めているのかであろう。ルイスがいう「感傷的」なゆえなのか、それとも、自分の孤独さを紛らわすための手段としてか。ラッセルは警告する。道楽や趣味は、多くの場合、根本的な幸福の源ではなく、現実からの逃避、直視するには大きすぎる苦痛を一時的に忘れるための手段になっている。根本的な幸福は人や物に対する友好的な関心、すなわち、人々を観察することを好み、それぞれの特徴に喜びを見い出して、相手の興味や楽しみが十分に生かされる機会を与えたいと願う。このような態度をとれる人こそ幸福を得るのだとラッセルはいう。<sup>14</sup>

#### 好きな人

相手がひそかに同じ道を進んでいることを発見した二人が異性であれば、友情は30分で恋愛に変わるとC.S. ルイスはいう。恋愛について学生はどう思っているのか。18歳の高校卒業前後までには異性を好きになって幸せを感じた学生、現在、感じている学生は少なからずいるだろう。学生からの記述を寄せ集めて彼女たちの気持ちを書くと下記のようになる。

彼氏がいれば／できれば最高！（2名）たとえば、「やさしくて、楽しい人」なんか！ そうしたら「好きな人を思い出すとき」とか、「TELがかかってくる時」とか、「好きな人と一緒にいるとき」（3名）に「（その）人を見ている」（2名）と、幸せに感じると思うわ。もっとカッコよく言えば、「大好きな人が隣にい

て、ずっと一緒にいられて、お互いを信頼しあっているとき」ではないかしら。

C.S. ルイスに言わせれば、友人と恋人の違いは、友人はその友情をほとんど語らず、お互い同じものに関心を持ち、前方をみつめ、裸の人間を求める。恋人は二人の愛を語り、相手に夢中になり、通常向かいあい、裸の肉体を求める。時には、相手全体への漠然たる没頭で、セックスのことを考える余裕もなく、恋人と不幸をもともにしたい、恋人なしで幸福であるよりも、その恋人と不幸であるほうが幸福であると思う。何人かの清泉の学生は恋愛の入り口に足を踏み入れているのか。

## 家族

現在の日本では親子の会話の断絶があるとよく言われる。確かに、子供も親も忙しい。両親がそろって子供とゆっくり食事をしながら、談話を楽しむ日が月に何回あるだろう。父親は自分のしたいことを我慢して、自分自身と家族の生存の為に夜遅くまで仕事をする。それを会社が要求している。会社も会社自体の生存がかかっている。そのような社会のシステムのなかで、どれだけ一個人が対応できるか、疑問ではある。しかし、その代償として支払わなければならないのが、子供の全人格的な成長、健全な家庭生活の営みであろう。ある教育研究所主催の国際シンポジウムの発表<sup>15</sup>で、中国、韓国、英国、米国、日本の小学校5年生約5千人を対象に調べた「家族の中の子どもたち」調査があった。その中で「友達からいじめられた時に親は」どう反応すると思うかという問いにたいして、「とても心配する」という答えは、日本が最低。逆に、「あまり／全然心配しない」は日本が最高だった。

また、「親が年にとって歩けなくなったらどうするか」という質問にたいして、「老人ホームに入れる」は日本が最高。「自分がよい父母になる」では日本が最低だった。

では、学生はどのように家族のことを考えているのだろうか。41名の学生が家族がいることに幸せを感じている。「幸せを感じる」ときの順位では「友人」に次ぐ第2位、「食べる」と同位である。「家族がいる」ことだけで幸せであるが12名。具体的には、「仲良く、穏やかに暮らす」(7名)、「笑う」(3名)、「話す」(2名)、「食べながら話す／お茶を飲む」(3名)、「テレビを見る」(2名)、「食べる」(2名)、「旅行する」(2名)などであった。多くの清泉の学生は、家族が健康で一緒にお茶を飲んだり、食事をするのが幸せであると感じている。ある学生はいう。

「私が幸せだと思う時は、数え切れないほどあるけど、唯一つ選ぶとすれば父や母の仕事がなくなったときです。地区やPTAの役員の仕事などで、本当に毎日忙しそうにしています。休みの日も家族だんらんというものが少なくなって、たまに寂しくなる時があります。だから、父や母が仕事を終えて、家族とその日の出来事を話す時が一番幸せに感じます。」

「自分を支えてくれ、支えてあげる家族を土台に、友人とは互いに理解しあって生活していくことが、“幸せ”な事だと思います。今、家族を離れ、下宿をして、両親のありがたさ、家族の大切さを感じ実感する毎日です。だから、今の私には、家庭が幸せの原点です。」

次の学生はある出来事を通して「家族がさ

さえとなる」と考えるようになった。

「私は、今まで家族なんているのがあたりまえで、本当に空気のように思っていたけど、この短大の入試を受けるとき、弟とお母さんが『おまえが努力していたことは家族みんなが知っているから夢に向かってがんばれ』と書いてくれた手紙をもらった時、私にはこんなに陰から私のことを見守ってくれている温かい家族がいるのだということにハッと気づき、心から幸せだと思いました。いつも陰から応援してくれている人の存在があるので毎日精一杯がんばることができます。』

この学生は、家族を「空気のように思っていた」ことに気付くすばらしい学びをした。われわれの身の回りにあるものが、あまりにも自然に、静かに存在しているので、その大切さ、いや、その存在にも気がつかないことがよくある。家族の思いやりもその一つかもしれない。優秀の優の字を二分すると、『「人」を「憂う」』になる。優秀とは記憶力・理解力に秀でているのではなく、人を憂う（心配する）ことに秀でていることになる。「家族が幸せの原点」と記した学生がいたが、マザー・テレサも「愛は家族からはじまるのです。聖書にそうはっきり書かれています」とインタビューに答えていた。<sup>16</sup> マザー・テレサにとって、家族とは一緒に住んでいるシスターたちであり、介護をする人でもあるのだ。確かに、自分の家族を愛せなくて、どうして他人を愛することができるのか。すべての人間関係は家族から始まり、その土台はお互いを「思いやる」、「憂う」、「心配する」、「愛する」ことなのだろう。「家族が空気」であることを別

の角度から梅香彰氏は次のように述べている。「わたしたちは家族という深い人間関係によって自分が生かされているのだと認識する必要がある……。地球という環境が大切だとおもうなら、命の源である水や空気に感謝しなければならない。わたしたちは社会のなかでいきるが、家族とは社会のなかの水や空気なのかもしれない。水や空気は地球上に生命を生む。だからこそ、水や空気が大切なのだ。同じように、家族は社会を構成する人間を生み出す。地球にとって水や空気が大切なように、この社会にとっては家族はもっとも大切なものなのだ。水や空気がきれいでないで地球の環境が壊れてしまうように、家族が壊れれば、社会にも大きな亀裂が入るのは当然のことである。」<sup>17</sup>

## 7. 人との交わり II

### 人のために何かをするとき

5名の学生が、「人のために何かをする」とき幸せに感じると記述した。これを職業として、または日常の生活の中で実践することはなかなかむずかしいことだろう。『幸福の探究』のなかで木原武一氏は自分の経験を通して、人に必要とされ、役立つことで幸福な体験が与えられたと書いている。氏は5年間、奥さんの病気の看病をした。その間、しだいに何か新しい感覚のようなものが芽生えてくるのを感じ、「やさしい気持ち」が泉のように心の底から湧いてくるのを自覚したという。<sup>18</sup> そのことに気がついたとき、看病や多忙な家事労働は彼にとって新しい意味を持つようになった。「それは耐え忍ぶばかりの『負担』ではなく、人間のなかにひそむ貴重なものを引き出してくれるかけがえのない体験におもわれ

てきたのである。しかし、それを人間の幸福といったものと結びつけて考えるところまではいたっていなかった。死に行く人間を前にして、不幸とか幸福とかいったことを考えるゆとりもなかった。」そのような状況の中で氏はナイチンゲールの次の言葉に出会った。「もっとも幸福な人々、自分の職業を最も愛する人々、自分の人生にもっとも感謝の念を抱いている人々と、それは私の考えでは病人の看護に携わっている人々である。」「看護は犠牲行為であってはなりません。人生の最高の喜びのひとつであるべきです。」氏は後に「あれほどの熱意と集中力をもって生きた時間はほかになかった」、それが幸福というものだったのかもしれないと思うようになった。

英語の calling は職業、または天職とも訳される。call の動詞の意味が「呼ぶ」であるから、だれかから「呼ばれること、召されること」である。自分に与えられたことをすることが使命であり、職業である。犠牲になるとは考えず、それを続けることに幸せを感じる。

誰かのために何かをしたいと思う学生はこのことについてどう考えているのだろうか。

「幸せとはだれか大切な人の為に何かをして、それをその人が喜んでくれることだと思う」

「誰かが悲しかったり、つらい思いをしているときは自分も悲しかったり、つらかったりしてしまう。だから、苦しんでいる人がいれば、みんなで助けあう必要があると思う。」

「昔は、かなりガキで、「自分さえよければ」的のところがあった。極度な寂しがり屋で、今でも一人になる事がイヤだなあとってしまう。そのくせに大声で笑

ったりするから、よく人に『悩みなさそうでいいね』と言われた。高校の先生に「オマエは悲しくてもそれを消して、笑ってごまかすから時には本質をだせよ」と卒業式の時に言われた。私はその言葉を聞いて内心ドキッとしながらも、また笑ってしまった。なんか、うれしかった。そして、人には言えなかったこととか、すべてこの先生は見えてたんだなあ、とすごく恥ずかしくなってしまった。私はその先生の一言で心が軽くなって、幸せな気分になった。ちゃんと私を見抜いていたんだなあと思う。私も、そういうふうになにげない一言で相手をドキッとさせて、幸せにしてあげたいと思う。人の為に。それが私の幸せ。」

「私は長野県に生まれて良かったと思っています。東京と比べて、すごい田舎だけど、ここの、のんびりとした暮らしが好きです。将来、この田舎で保母になりたいと思っています。子供時代をのびのび過ごして、長野県に生まれて良かったと思ってくれる子供がいたら、それは私にとっての幸せです。」

J.S. ミルは、自分の幸福を直接の目的にしない場合に、かえってその目的が達成されると考える。自分の幸福でない何か他の目的のために、たとえば他人の幸福のために働き、その過程で、または、結果として幸福が得られるのだという。

#### 愛すること／愛されること

C.S. ルイスは愛の種類を次の4つに区別した：愛着（親しんだ家具、古着、人に愛着をもつ、お互いのために作られていないよう

な愛)、友愛、恋愛、絶対愛(母親が子に対して持つような献身的、犠牲的愛)。清泉の学生はこの4つのなかのどの愛を経験しているのだろう。

愛着： 「人、植物、動物、何かを愛していれば幸せ」

友愛： (前述、「友人」の項目を参照)

恋愛： 「自分を思ってくれる人がいること」「愛を感じる時：大好きな人と、一緒に日向ぼっこしていて、ふと、耳もとで「好きだ」なんていわれたら」

「人に愛してもらうことかな、そして私も愛したい(くさい言葉だが、今はそんな気分)」

「自分が人を好きになれること、自分が好きな人達に愛されること」

絶対愛： 「家族の愛をずっと受けいれていること(もちろん、寝ることだって、おいしいものを食べることだってしあわせだなあと感じるけれど、それは一瞬の幸せにすぎないと思う。家族という存在の中に私がいるということが、私にとって、永遠の幸せであり、仲間がいるということが、一生涯の幸せだと思っている)」

「だれも憎まず、だれにも憎まれないこと」と書いた学生がいるが、これは消極的な愛としてこの項目にいった。

### 信じること

「信頼できる人がいること」、「信じること」が幸せであると考えた学生がそれぞれ1名づついる。

「人生のわずかしか生きていないけれど、今まで誰かを犠牲にしてまで大切な人達を信じる事ができなかった。そのため、自分自身を追い込み、「傷つけない」という相手に対する思いが裏目に出て、かえって、傷つけてしまったことがよくあった。「信じること」は不安もあり、難しいことだけれど、今まで私が生きてきたなかで、幸せになれるには「周りの人達を信じること」だと思う。」

## 8. 目標

### 目標を持つ

「人間は意欲し、創造することによってのみ幸福である」<sup>19</sup>とアランは『幸福論』で述べている。どんな職業も、自分がコントロールできる時は愉快であろうし、もし、だれかに服従しなければならない時は不愉快であろう。人間はもらった楽しみには退屈し、自分で獲得した快樂のほうをはるかに好むものだ、と彼はいう。自分がしたいこと見つけ、次にそれに向かって突き進んだとき、実際にそれが実現できなくとも、自分で決めたという満足感が得られる。調査の中でも「目標を持って一生懸命やる」ことに幸せを感じている学生が11名いた。ドストエフスキーは、強制させられる無意味な仕事ほど耐えられないものはない、と監獄の囚人の仕事を例にあげる。もっとも凶悪な囚人でも、水を一つの桶から別の桶へ移し、またそれをもとの桶に戻す、土の山をひとつの場所から他の場所へ移し、またそれをもとへ戻すという作業をさせたら、四、五日もしたら首をくくって、自殺でもするだろうと推測する。

清泉の学生では11名が目標を持つことに幸

せを感じている。

「目標があること。それがなくなるときほどみじめなものはない。目標といってもそんなだいたいそれたものでなくて身近なことで、ひとまずそれに向かって生きていくようなことがあれば幸せだと思う。」

「将来めざす分野について勉強できること（世の中には、病気と闘って、自分の好きなことが満足にできない人が大勢いるので、そのような人のことを思うと私は贅沢なほど幸せです。」

ドフトエフスキーは目標に向かって行く過程が幸福であると考えた。コロンブスが幸福であったのは、彼がアメリカを発見した時ではなく、発見しつつあった時で、発見したときではないと断言している。「～しつつ」時の幸福として学生があげた具体的な例は、「旅に行く前夜」、「旅に行く計画をたてているとき」、「コンサートに行く前」があった。また、何かを努力して獲得する目標とは次元が違うが、「寝る前が幸せ」であると考えた学生は6名いた。

### 目標の実現

「目標が実現される」ことにより幸せを感じる学生は5名、「好きな事ができるとき」(5名)「ほしいものが手に入ったとき」(3名)である。どの学生も、目標・好きなこと・ほしいものが何であるのかを具体的に書かなかった。そこが一番聞きたいところであるのだが。

自分の目標を実現するためには当然それ相応の努力が必要であるが、清泉の学生はどの程度努力をしているのだろうか。マハトマ・ガ

ンジーは「一人に可能なことは万人に可能である」と言い、英語の諺にも“Where there is a will, there is a way.”(意志のあるところ、道あり)がある。日本の学校教育、社会ではこれを実践しているようだ。ラッセルは、大きな富のおかげで人間が努力しないで自分のきまぐれを満足させられる場合は、生活に努力が不要になったというだけで、幸福は奪われてしまう、と言及している。すなわち、簡単に目標が実現でき、好きなことがすぐでき、ほしいものがすぐ手に入る場合は、幸福感は減少する。逆に、努力して得ることにより、初めて人間はより一層幸福を感じる。

しかし、自分の限界も知らなければならない。カントは多少考えることができる鳩を例に使う。もっと速く飛びたいと思う鳩は上空に行けば行くほど、空気の抵抗が少なくなるはずだからと、上へ、上へと舞い上がる。しかし、鳩は空気不足で死んでしまう。これは科学の進歩に人間の経験が対応できないという人間が直面しているパラドックス、人間の限界を説明している。聖アウグスチヌスの「賢者は自分の限界を知る」という教えは日常忙しい人にとって考えなければならないことだろう。ラッセルも過度にならない程度に自己の能力を高く評価することが幸福のひとつの源であるとも述べている。孔子いわく、「心の欲する所に従えども、矩をこえず」。限界を意識しながらも、目標実現のために進んでいる二人の学生の例をあげる。

「何かを一生懸命やって、もう自分の限界というくらいまでやって、やり遂げたとき」

「将来、また、今現在、こうして健康で自分のやりたい事、夢に向かって進むこ

とだ。誰に何を言われようとも、大きな困難にぶつかることも、打ち砕き、乗り越えて行くことも幸せだと感じる。過去を振り返ることも、未来を夢見るのも幸せである。」

## 9. 明るい／笑いのある生活

「一度きりの人生、一日一日大切に、明るく生きられることが自分の幸せだと思う」

「明るく過ごせること」

「毎日を大切に、明るく生きられること」

3名の学生が「明るさ」を幸せの要因とする。「明るいこと」という意味から由来しているドイツ語 *Heiterkeit* (朗らかさ) を例にあげて、ショウペンハウアーは幸せを説明する。<sup>20</sup> 彼いわく、種々の財宝のうちわれわれを幸福にしてくれるのは、心の朗らかさである。なぜなら、この性格そのものによって人は報われる。若くて、美男で、金持ちで、世の尊敬を集めた人間でも、この人が幸福かどうかは、朗らかな人間かどうかということだ。逆に、朗らかな人間だとすれば、年齢、貧富に関係なく、幸福なのだ。朗らかさが今来ては困るという時はない。朗らかさはそれがそのまま利益になる幸福の正貨だという。ちなみに、漢字の「朗」も「良い月」、すなわち、「満月」、明るいことを意味している。

この明るさと関連して、笑いがあるだろう。「笑う門には福来る」ともいうが、7名の学生は笑いが幸せを導くものと考えてる。

「家族や友達が嫌なこともなく、みんな笑っていられて、自分も笑ってられる

ときに幸せを感じる」

「一日一回でも、家族がそろって、笑っていられば、当り前のことだけど、うれしく思います」

## 10. 平凡な生活

ベンサムは人間は快楽と苦痛という二人の支配者の下で生活していると考え、われわれの行動を指示し決定するのは、快楽と苦痛だけだ、と結論づけた。ショウペンハウアーも「苦痛のあるなしが、人生の幸福をはかるものさしである」と述べている。すなわち、苦痛を減少させ、快楽を増進すれば、幸福に感ずる度合も増すという見方である。では、苦痛を減らす方法はあるのか。ブッダの教えでは、苦痛を感じるのは、我々がものを望むからである。ゆえに、望むものを少なくすれば、苦しみも少なくなる。しかし、何かを欲するということは、われわれ、人間に組み込まれたプログラムの一つであり、この欲望がなければ生存できない。欲望のあるところには必ず、その欲する対象があると考えられる。喉が乾いたときには、喉を潤す水がある。空腹を感じる時には、お腹を満たす食べ物がある。愛したいと思うときは、かならずまわりに愛すべきものがあるようだ。結局、何を望むかで自分の幸福度が違ってくるのだろう。

偉人の生涯は、二、三、の偉大な瞬間を除けば、興奮にみちたものではなかったとラッセルはいう。ソクラテスは生涯の大部分を、妻とともに静かに暮らした。カントは、一生、自分が住んでいた町から15キロ以上離れたことは一度もなく、毎日、規則正しく、散歩と読書、著作に専念した。ダーウィンは、世界一周をしてから、その後の生涯をずっと

わが家で過ごした。マルクスはいくつかの革命をおこしたあと、残りの日々を大英博物館図書室で過ごした。静かな生活が偉大な人々の特徴であり、彼らの快樂はそと目には刺激的なものではなかったということだった。孔子は諸国を遍歴したあと、次の言葉を残した。「粗食を食らい、水を飲み、脛を曲げてこれを枕とす。楽しみまたその中にあり。不義にして富み、かつ貴きは、われにおいて浮雲のごとし。」と簡素な生活をして余生を送ったという。

20名の清泉の学生が質素な平凡な生活をすることに幸せを感じている。ただ、彼女たちはまだ18歳でいわゆる偉大な何かを成し遂げたという段階ではない。ここに、「平凡」、「普通／普段」という言葉を使用して、自分の幸せな生活を描いたものをいくつか引用する。

平凡：

「平凡な毎日を送れること。平凡だと、生きていくにはつまらないかもしれないけど、毎日いいことばかりあるわけではないし、逆に悲しいことがおこるかもしれない。だから、普通である平凡な一日の方が私にとっては幸せなのだと思います。」

「私が幸せに思える事は『平凡』っていう言葉がすごく大事に思えた時です。家に帰れば、必ず誰かがいる。『おかえり』、『いってらっしゃい』っていう言葉があたりまえだとおもっていた頃はきっと今が幸せだって事に気づいてない時だと思いました。自分にとっての幸せは、家族がいて、みんなが健康で、友達がいる、たったそれだけと思う人もいると思うけど、たったそれだけが、本当の幸せ

だと思っています。一日一日、何もおこらずに過ぎていってしまう日をつまらないと思うか、幸せだっておもえるかの違いだと思います。」

「朝起きて、顔を洗って、ごはんを食べる。学校にきて、友達に会って、話をする。家に帰ってテレビを見る。そして、眠って、朝が来る。そんななんでもないようなことの繰り返し、・・・何もない、つまらないような平凡な毎日が幸せなんだと思う。最近、ずっと毎日がつまらなくて、「何をしているんだろう私は・・・」といつも考えていた。周りの人達がみんな楽しそうに見えた。「どうすれば楽しくなるんだろう」といつも考えていた。でもそんなことをずっと考えているうちに、何もない、日常の生活が実は一番幸せなことじゃないんだろうかと思えるようになった。心を穏やかに、やさしくのんびり、何もない生活をゆったりと送ることが幸せなのだ。」

普通：

「普通に暮らし、普通に人生を終える。これもその人が幸せだったと思えば、幸せだと思う。人からものをもらえば嬉しいけれど、幸せは目に見えないものだと思う。お風呂に入ったり、手を動かしたり、食事したり、話したり、今、私たちが当たり前に行っていることがある日、突然できなくなったらと思うと、そのとき、初めて、そのことをしていた時に戻りたい、と思うと同時に、その価値に気付くと思う。現在、私に足りないことは沢山あるし、欲しいものも沢山ある。けれど、私は、今、幸せだと思う。」



「体もどこも不自由なところはないし、毎日の生活にも困っていないし。こうして、毎日元気で過ごせることが、幸せなんだと思う。そして、精神的にも満たされていればもっと幸せなんだと思う。」

「この地球のどこかには、その日の食べ物さえもろくになくという人がある。今まで18年間生きてきて、私はそういうことは一度もない。好きな時に好きなものが食べられて、好きな事ができて、好きな時に寝られる。そんな普通の生活が幸せだと思う。」

「ひとは上ばかりみてしまうから、お金持ちの人はぜいたくできてよさそうだけど、だいたい自分自身普通であることが一番幸せなんだという事を忘れてたくないと思っています。そう思っていると毎日が幸せでいっぱいです。」

「平凡」、「普通」という言葉以外に学生は「平和に暮らす」、「あたりまえにある日常」、「あたりまえのように過ごしていること」、「何もない日常の生活」、「毎日何事もなく無事に暮らしていること」を使用した。その他、次のようなことを書いていた。

「何不自由もなく生活している。それだけで幸せだ。(耳や目が悪いとテレビも見れないし、何も始まらない。運動もできないし、人の言うことも聞こえない。でも私たちは何の不自由もなく生活している。)」

エピキュリアン(快楽主義者)の元祖として知られているエピクロスは、快楽は官能的満足ではなく精神的満足によってのみ与えら

れるもの、すなわち、心の平静があればよい、といている。「快(楽)が目的であるとわれわれが言うとき、・・・道楽者の快でもなければ、性的な享樂のうちに存する快でもなく、肉体において苦しみのないことと靈魂において乱されない(平静である)ことにほかならない。・・・快の生活を生み出すものは、つづけぎまの飲食や宴会騒ぎでもなければ、また、美少年や婦女子と遊びたわむれたり、魚肉その他、ぜいたくな食事が差し出すかぎりの美味美食を楽しむたぐいの享樂でもない・・・」<sup>21</sup>

多くの清泉の学生にとって平凡で普通の生活ではあるが、健康で、何不自由のない生活が心の平和を与えてくれるものとして理解しているようだ。

## 11. 今/生きていること

「nowhere」、この単語の音節の切れ目は no-where、副詞の意味は「どこにも・・・ない、どこへも・・・ない」、名詞は「名もない場所、どことってとりえのないところ」とあり、<sup>22</sup> 否定的な意味になる。そこで、次の文を訳すとどうなるか。There is nowhere to be fun and important in life for me. 私にとって人生で楽しく、重要なところなんかどこにもない。随分ニヒルな人生観になってしまう。しかし、ちょっと見方を変えて、この単語の音節の切れ目を無理やり変えて、nowhere として、文を作り替えてみよう。There is nowhere to be fun and important in life for me except 'now' and 'here.' 私の人生にとって、「今」そして、「この場所」以外に楽しく、重要なところはない。どうだろう? このように考えると、人生観もがらりと変わり、

昨日でもない、明日でもない、この瞬間を生きよう、大切にしよう、新鮮な毎日が送れるのではないか。この考えは、茶道の一期一会とも共通しているところがある。部屋の中には生け花があり、壁にはその季節にあった絵が掛けてある。料理も季節の野菜と新鮮な魚。今、あなたと私はこうしてお茶を飲んでいるが、明日のことは分からない。さあ、この時、この場所を大切に、今を楽しみましょう。

「今」の大切さを感じている学生は5名、「生きていること」が8名いた。

「自分が生きていると実感したとき」

「以前、友達を事故でなくした。その時に私は友達ができなかった事や生きられなかった分も頑張ろうと心に決めました。今、私の周りには、何でも相談できる友達や大好きなひとがいます。本当に特別な事じゃないけど、生きていることを幸せに思っています。」

「自分が不幸だと思っても、他の人からは幸せに見えるかもしれません。それは、その人の価値観の問題だと思う。病気をもっている人は健康でいるだけで、お金なんかなくても幸せに思うでしょう。だから、今の私は幸せかもしれません。勉強できることも、歩いていることも、生きていることすべて、幸せなことだと思います。」

## 12. その他

学生が書いたものをそのまま列記する。

「本当の幸せって良くわからない」(5)

「手紙やハガキがきたとき」(2)

「お小遣い入った時」

「ぬいぐるみを抱きしめたりするとき」

「遊んでいるとき」

「みんなが幸せなとき」

「バイト料入るとき」

「私の誕生日」

「車の免許がとれたこと」

「家からスーパーが近い」

—定義として—

「幸福は何か」を説明するとき具体的なものを書いた学生と、「幸せ」の定義を書いてくれた学生がいた。後者をここで取り上げ、学生の文を引用する。

### 1. 自分が楽しい／幸せと感じたとき(3)

「自分が心から楽しいと感じたとき(友人と話しているとき、遊んでいるとき、家族といるとき、どんなどきでも)」

「ほんの小さなことでも幸せを感じる：寒い時、おこたつでみかんを食べる日常生活をしていくなかで、一日にきっと自分では気付いていないけど、幸せを感じていることがあると思う。その幸せを感じる自分がにとっての幸せなのか？と思う」

### 2. 自分でつかむもの(3)

「一瞬かもしれないし、長いものであるかもしれない。何が一番幸せなのかは言い切れることは難しい。決して逃げることではない。かといって、突き進むことだけが幸せでもない。

「むやみに幸せと口にだすことは本当の幸せではない気がする。幸せは自分で探して、つかんでおかないといけないもの。まだ、本当の意味での幸せということを理解していないだけかもしれない。」

### 3. なくした時に気づくもの (3)

「自分を見失った時初めてわかるものかもしれない」

### 4. 自分に充実感をもたらすもの (1)

「日々の生活がその人にとって充実感をもたらすものであれば、それがしあわせ。最近「しあわせ」を感じたことがあったかな。ただ毎日が過ぎて行く感じ。」

### 5. 自分のためになっているもの (1)

「あとになって辛い事も自分のためになっていれば幸せと思う」

### 6. 比べられることのない世界 (1)

「今の日本って、学歴×2ってばかりで、学歴だけじゃ、表わすことのできない才能もあると思うから、学歴社会じゃなくなったなら、きっと幸せだろうな。」

### 7. 自分の居場所がある (1)

「自分が自分でいられる場所があること」

## III. まとめ

学生は「人との交わり」、その中でも「友人」に幸せを求めている。幸せを感じる時の第1位であった。一日の大部分は学校での生活であり、そこでの人間関係が自分の位置付けをきめるわけだから、順位の結果は当然だろ

う。ただ、ここで問題としたいのは、彼女たちが、今までどのような友人関係を持ってきたかである。保育園か幼稚園に入園後、同じような服装で同じようなものを持って登園し、同じ場所で、同じような遊びをして過ごす。以後高校卒業時まで、画一的に教育されるなか、数人の同じ仲間と過ごし、一日が終わる。少しでも違うものを持ち、行動をすると、異様に見られる。このような同質文化では、常に他人を気にしなければ、生きていけない。そうしなければ、いじめられ、爪弾きになる。ハイデガーは『おまえは死に行く存在なんだよ。気を使わなければならないのは他人ではなく自分なんだよ』と自分の良心の呼びかけが聞こえないかとわれわれに警告する。ひとりの学生が幸せの定義としてあげた「自分が自分でいられる場所があるとき」という記述では、自分自身を周りの人間から切り離し、自分を見つめてみたい、自分自身でありたいと切に語っているように思える。集団生活でお互い助けあい、連帯責任制でお互いを見張ることは日本の社会が伝統的に要求してきたことである。しかし、人間である以上、一個人としてのユニークなアイデンティティーを意識し、確立しようとするのは当然である。だが、この社会のなかではそのアイデンティティーは自分が存在する物理的な場所（職場、近所、学校）とのかかわりにおいて確立しなければ、生きていくことが難しい。さもなければ、村八分にあう。たとえ本来のユニークな自分を失ったとしても、友と関係をもつことによって、動物としての生存本能を優先するのもかもしれない。またあるときは、自分の孤独さを紛らわすための手段、または、C.S.ルイスがいう感傷的な関係をもつことにもなる。本来の自分を維持しつづけ、同時に相手

の人格を尊重したうえで関係をもつことは難しくなるのではないか。何人かの学生はこのことに気づいているようだ。

友人の次に、学生が時間的に一緒に過ごす比率が高いのは家族である。「幸福に感じるとき」も「家族」が「友人」について第2位であるのと一致する。夫婦は別として、大体的な場合、親子・兄弟は自分で選んで持った関係ではない。子供にしてみれば、家族は生まれた時からの関係であり、あまりにも自然なので、学生の記述のように「空気のような」存在で、いつもは気づかない、意識しないものなのかもしれない。同時に家庭とは学校・外から帰って、安らげる憩の場である。学生が家族の健康を願い、一緒に食事をし、時には旅行をし、家族だんらんを「幸せ」と考えるのは当然のことであろう。ただ、それは学生が望むことであり、現実には多くなされていない。学生自身も、今までの生活は、クラブ活動、塾、友人とのつきあいで、朝早く家を出れば、遅くまで帰ってこない。家にいても、勉強かテレビを見るかで、親子との会話はほとんどなされない。それゆえに、多くの学生はより強く家族のだんらんを望むように、調査からうかがいしれる。

人のために、社会のために何かをすることに幸せを感じる学生は少ない。積極的に人のために何かをする、例えば、「愛すること」の場合、人を愛するのではなく、家族・友人・好きな人からの愛(友愛)を受け入れる愛、または、人・植物・動物・自然など、何かを愛していれば幸せという愛着の愛である。このことは「自分が人にしてもらって喜ぶことをしなさい」という西洋的な思考と、「自分が人にしてもらいたくないことはするな」という東洋的な思考の違いから来るのかもしれない。

。「いいことは積極的にしなさい」というよりも、「よけいなことはしないで、人の邪魔をするな」という発想になるのだろう。別な言い方をすると、人と争って幸せをつかみ、満足感を得るよりも、平穏な生活を維持するために辛抱して長いものにはまかれ、従順に生き、心の平和を得るよう努力したほうがいい、ということになる。清泉生の考え方は日本の伝統的な社会が維持してきた習慣、すなわち、「あるがままのものを受け入れる」ところが感じられる。一人の学生がいう。「何が一番幸せなのかは言い切ることは難しい。決して逃げることではない。かといって、突き進むことだけが幸せでもない」と。「幸せ」の定義に「めぐりあわせがいいこと。また、そのさま。幸福。幸運。運命」とあった。英語の「happiness(幸せ、幸福)」の語源は「happen(たまたま事が起こる、偶然～する)」であり、この単語にも運命的、偶然性の意味がある。清泉の学生が考える幸せは積極的に物事をなすよりも、運命として「あるものを、あるがままに、与えられたものとして、受け入れる」姿勢があるようだ。

調査対象が幼児教育の学生ということで、すでに彼女たちの目的はある程度ははっきりしている。そのためか、項目の「目標」、「好きなことをする」、「望むものを手にいれる」のところでは何を具体的に目標とするのか、何が好きなのか、何を望むのかはほとんど書かれていなかった。彼女たちの幸せは、冒険、スリルやサスペンスのある生活にあるのではなく、平穏無事な家庭生活にあるようだ。

結論として清泉短大の多くの学生が考える幸福とは：

- 1) 自分ばかりでなく、家族・友人・周りの人が健康である。

- 2) 家族・友人と仲良く暮らす。
- 3) 自分の人生には目標はもつが、あまり多くは望まない。
- 4) 何事もなく無事に暮らせるような平凡な生活ができる。
- 5) 今をあるがままに生きる。

学生からの記述の一部を接ぎたして、幸せに感じる一週間の具体的な生活を描くと下記の記事になる。

月曜の朝、目覚ましがなる。「あと10分」と言ってまた寝る。学校で友人に挨拶するとき、「あー、私には友だちがいるんだ」と幸せになる。午前の授業を終えて、カフェテリアで友だちと一緒に弁当を食べる。笑ったり、ふざけあったり。これ以上の幸せはない。友だちの悪口などは決して言わず、仲良しでいられるように。ときには、けんかをしたり、憎みあったりするけど、お互い支えられ、ともに悲しんだり、泣いたり、喜んだりしてきた。親には相談できないことも友人にはできる。6時に帰宅。母が作ってくれた夕食と一緒にテレビを見ながら食事。学校の話もする。その後、自分の目標である保母の免許をとるための勉強。9時に家族とお茶の時間。いつもはもっと遅くなる父親が帰っていた。久しぶりの家族だんらん。おこたつでみかんを食べ、お茶を飲みながら一緒にテレビを見る。幸せな家庭なのかなって感じる。10時。お風呂に入って、ポーッと何も考えないで、疲れをとる。幸せだ。彼氏がいればもっと幸せだなど思う。風呂上がり、友人からTELがかかってくる。今週の土曜日にカラオケに行くことにした。11時。母親が干して

くれた太陽のにおいがしみついたふかふかの布団につく。この寝る瞬間、なんともいえない幸せな気持ちだ。・・・ああ、良く寝た。うれしいことに、今日は土曜日。学校がない。もう少し寝る時間があるとわかった時の喜び。朝食後、ポカポカの日差しの中を犬と自然散歩する。家の周辺は広大な田畑が広がっている。「平和だ、幸せだ」と感じてしまう。途中、かわいい赤ちゃんに出会い、だっこする。自分は2年後、保母さんに。頑張ろう。昼食後、明るいうちにお風呂に入って、大好きな作家の新作を読む。4時。友人に会う。理想の彼の話をしながら、パフェと抹茶アイスを食べる。その後、安売りをしているディスカウント・ストアに行き、衝動買いをしてしまった。久しぶりのカラオケで歌う。お腹がすいたので、遅い夕食は腹一杯食べる。満腹感のあとにくる眠気がまたいい。今、こうして生きていること、ささいで、平凡な生活だが、幸せだと思う。大切にしたい。

「幸せ」とは「めぐりあわせがいいこと」、「運命」と定義されていた。予期しなかった事故により、星野富弘氏は突然手足が不自由になり健康が奪われた。それにより、目標であった体育の教師の職も着任後わずか2ヵ月後で断念。普通の平凡な生活もできなくなった。介抱する年老いた母親にむかっては「くそばばあ、俺なんかどうなったっていいんだ。産んでくれなけりゃよかったんだ」と罵倒するなど、家族との関係にも悩んだ。そして、毎日のあるがままの生活は首から下が全身麻痺の車椅子の生活である。しかし、このような状況のもとでも星野氏は「いつか・・・、きっといつか」の「幸せ」に出会ったという。

それは「何ものにも代えられないすばらしい出会いだと思っている」と記している。「人間学」の授業を進める上で、『風の旅』は学生にとって「幸せとは何か」を考える素晴らしい導きとなった。

- 1 星野富弘『風の旅』立風書房、1994年。星野氏は大学卒業後、体育教師として中学校に着任。わずか2ヵ月後にクラブ活動の指導中、空中回転で誤って墜落。以後、首からした全身マヒ。口を使って字を書き、絵を描く。
- 2 同上、p. 2。
- 3 山崎正一、市川浩編『現代哲学辞典』講談社現代新書、1970年、p. 234。
- 4 松村明編『大辞林』三省堂、1989年。
- 5 アリストテレス『エウデモス倫理学』世界の名著、中央公論社、昭和52年、p. 513。
- 6 朝日新聞社説、1966年11月15日。
- 7 「箴言」第24章23～24『聖書』日本聖書協会。
- 8 木原武一『幸福の探求』芸文社、1996年、p. 176。
- 9 『エウデモス倫理学』、p. 519。
- 10 アリストテレス『ニコマコス倫理学(上)』岩波文庫、1996年、p. 34。
- 11 アリストテレスのいう最高の幸福を下田弘氏は『幸福論』のなかで、低級の幸福と高級の幸福(真の幸福)という観点から追及する。この真の幸福の獲得を芸術の鑑賞と置き換えて、美術教育で絵画のことを教えようとする場合は、絵の技法ばかりではなく、実際に第一流の名画を見せる。それも電車のなかの広告の絵などではなく、できれば美術館に連れていき実物を見せる。小説についても古今第一流の傑作作品を、料理、菓子作りの職人芸の場合も弟子に教える時は、第一流のものに接するように仕向けるだろう。だから、幸福の達成も同じであろうから、幸福とは何かと考え、教えてもらわなければならないだろうという。
- 12 カール・ヤスパース『哲学入門』新潮文庫、1996年、p. 158。
- 13 C.S. ルイス『四つの愛』ルイス宗教著作集、新教出版社、1979年、参照。
- 14 ラッセル『幸福論』岩波文庫、1991年、参照。
- 15 「天声人語」朝日新聞、1994年12月5日。福武書店教育研究所主催の国際シンポジウムの発表で中国、韓国、英国、米国、日本の小学校5年生約5千人を対象に調べた「家族の中の子どもたち」調査があった。その中で「友達からいじめられた時に親は」という問いにたいして、「とても心配する」という答えは、日本が14.9%で最低、最高は英国の40.9%であった。逆に、「全然心配しない」、「あまり心配しない」の合計が日本が最高の40.5%。ほかのどの国も10%台であった。また、「親が年とって歩けなくなったらどうするか」という質問にたいして、「老人ホームに入れる」が日本が最高の24.1%。中国、韓国がそれぞれ、0.9%、0.4%だったという。「自分がよい父母になる」では日本が最低の18%、「幸せな家庭生活を作る」は35%だった。
- 16 ナヴィン・チャウラ『マザー・テレサ愛の奇跡』日本教文社、1995年、p. 299。
- 17 梅香彰『はじめて読む哲学の本』芸文社、1996年、p. 162。
- 18 『幸福の探求』p. 169。
- 19 アラン『幸福論』集英社文庫、1994年、p. 143。
- 20 ショーペンハウアー『幸福について』新潮文庫、1973年、参照。
- 21 『エピクロス』岩波文庫、1996年、p. 132。
- 22 『Kenkyusha's New English Japanese Dictionary』研究社、1980年。